

ADVOCATE

Japanese Society of Health Promotion : JSHP

日本ヘルスプロモーション学会公式ホームページ <http://www.jsph.net/>

8

第8号

日本ヘルスプロモーション学会
2005年10月1日発行
発行者 島内憲夫
編集者 吉岡康

学会事務局
〒270-1695
千葉県印旛郡印旛村
平賀学園台1-1
0476-98-1118 (tel/fax)
jimukyoku@jsph.net

* advocate「アドボケート」とは、ヘルスプロモーションに関するオタク憲章の中に書かれている3つのプロセスの第一番目「唱道」のことです。

巻頭言

健康は誰のもの
ネパールでの国際協力から学んだこと

理事 中村 修一（九州歯科大学）



ヘルスプロモーションとは1986年に採択されたWHOの憲章で「人々が自分の健康を自分で守れるようにする」為の健康戦略であり、2000年までに地球上の全ての人々を健康することを目標としたが、2000年を5年経過した現在満足すべき結果を得たとは言えない。しかし、健康を標榜する学会や健康・医療の現場ではヘルスプロモーションは益々盛んに使われるようになってきている。

筆者は1989年からネパールで歯科保健医療協力を行っている。事業はヘルスプロモーションの概念を背景にした活動である。そこで、途上国の現場からヘルスプロモーションについて考えたことを述べてみたい。

ヘルスプロモーションのキーワードに advocate, enable, mediate がある。Advocate は健康に関する因子を望ましい方向に導くことで、何をなすべきか住民に唱道することはそれほど困難ではない。しかし、住民ニーズに立脚した方向に導くことが涵養である。Enable は能力の付与で自立型健康づくりには最も有効な手段であり、努力が目に見える形で実感できる。ネパールでは1994年から現地ローカルリーダーを

対象とした口腔保健専門家の養成プロジェクトを進め成果を上げている。Mediate は準備が進み実際に現場で技術移転や健康教育を行う場合の人間関係や組織を円滑に進めるための調整や統合を意味するが、これが3つのキーワードのなかで一番厄介でトラブルも多い。健康づくりは生活者の文化や習慣や社会構造など複雑な社会を対象に価値観の変容を迫ることもある。ネパールでも小さなトラブルを経験した。

健康づくりの現場で advocate し enable して実際にフィールドで事業を展開する段階では活動の主人公は住民に移管しなければならない。しかし、人材育成をおこなった側やカウンターパートや行政がトップダウン型で事業を展開する場合がある。このことは、健康作りの落とし穴である。健康は社会のものであること強く認識しないと、健康を私物化する危険がある。甘い誘惑に負けてはならない。

しかし、住民の自立が目標といっても100%の自立はありえない。自立には適切な依存がどのような状況にも必要と思われる。控えて適切なサポートがヘルスプロモーションを遂行する上で究極の心がけと思う。

第3回学術大会へおこしください

- 【日程】平成17年11月19日(土)・20日(日)
【会場】北九州国際会議場 2F「国際会議室」
〒802-0001 福岡県北九州市小倉北区浅野3-9-30 (JR小倉駅北口徒歩7分)
【大会長】中村 修一(九州歯科大学国際交流・協力室長)
【大会事務局】〒803-8580 福岡県北九州市小倉北区真鶴2-6-1
九州歯科大学国際交流・協力室(担当:辻澤)
TEL:093-582-1131 内6632
FAX:093-582-8288
mail:motoyama@kyu-dent.ac.jp

皆さまのおしをおまちしております。

特集 『第6回ヘルスプロモーションに関するグローバル会議』開催される (タイ・バンコク 2005. 8. 7-11)

去る8月7 - 11日、これまでのヘルスプロモーション国際会議（第1回～第5回）に引き続き、WHOは第6回目の会議を開催し、『バンコク憲章』を提唱しました。第1回会議（1986年）の『オタワ憲章』以来、およそ20年ぶりとなったヘルスプロモーションに関する憲章の全容について、本会議への出席者であり我が国へのオタワ憲章の導入者でもある島内憲夫学会長から会議レポートが届きました。

第6回ヘルスプロモーションに関するグローバル会議に出席して

学会長 島内 憲夫

2005年8月7日から11日までタイのバンコクで「第6回ヘルスプロモーションに関するグローバル会議」が開催され、最終日の11日に「バンコク憲章」が提唱されました。

私（順天堂大学ヘルスプロモーション・リサーチ・センター所長）と同センターのコーディネーターの高村美奈子は、WHOから招待を得てこの会議に出席してきました。バンコク憲章は、1986年の「オタワ憲章」で確立された価値、原理そして活動戦略、そしてオタワ会議に続くヘルスプロモーションに関する国際会議での勧告を補いそして組み立てたものであり、世界中の活動家や実践家によって分かち合い、WHO会議（世界保健会議）の加盟国によって承認されたものです。

WHOは、達成すべき高い健康を享受することは人種差別のないことと同様に、あらゆる人間にとっての基本的な権利の一つであることを認めています。ヘルスプロモーションは、このような重大な人権に基づいています。それは、QOLの決定要因や精神的・霊的（スピリチュアル）な状態を包含するポジティブ（積極的）で包括的な健康概念を提案しています。

バンコク憲章は、ヘルスプロモーションの定義に修正を加え再定義しました。「ヘルスプロモーションは、人々が自らの健康とその決定要因をコントロールし、改善することができるようにするプロセスである。」

また、国際化する世界でのヘルスプロモーション戦略として、「健康な世界への発展は、強力な政治的な活動、幅広い参加、持続的な唱道が必要である。ヘルスプロモーションは、十分に活用されるべきであるし、証明された効果的な戦略の宝庫である。」とし、「ヘルスプロモーションをより進歩させるために、すべての部門と場で、つぎのようなことに取り組まなければならない。」と述べています。「唱道：人権と連帯意識に基づいた健康を唱道すること 投資：健康の決定要因に焦点に取り組む持続的な政策、活動そして社会的基盤に投資すること 能力形成：政策開発、リーダーシップ、ヘルスプロモーションの実践、知識移転や研究、そして健康識字のための能力を形成すること 規制と法制定：すべての人々の健康とwell-beingを達成するために、有害なものか

らの高水準の保護と、平等な機会を保障するための規制と法律を制定すること パートナー：持続的な活動を創造するためにパートナーと公的組織、民間組織、非政府組織そして市民社会による同盟をつくること」

同時に、オタワ憲章のときに作られた「5つの活動方法」についてもその重要性を再確認しました。それは「1. 健康的な公共政策づくり 2. 健康を支援する環境づくり 3. 地域活動の強化 4. 個人技術の開発 5. ヘルスサービスの方向転換」です。また、ヘルスプロモーションに取り組む際の4つのコミットメント（義務）を確認しました。「1. ヘルスプロモーションをグローバルな開発事項の中心に置こう 2. ヘルスプロモーションを全政府の中心的な責任にしよう 3. ヘルスプロモーションをコミュニティと民間団体の主要な焦点にしよう 4. ヘルスプロモーションを適切な企業経営の必須条件にしよう」

そして最後に、「成功させるための国際的な誓約」について次のように述べました。

「これらの公約を果たすために、新しい導入口と斬新な反響を使用するのと同様に、現存の証明された戦略をよりよく適用することを要請する。パートナーシップ、同盟、ネットワーク、協力は、共通の目標を持っている人々を結びつけ、人々の健康を改善するための共同活動において、価値ある方法を提供する。各々の部門 - 政府機関、市民社会、民間部門 - は、特別な役割と責任を有している。たくさんのケースに存在する基本的な健康の決定要因に取り組む進歩は、共に活動することによってのみ生じるのである。そうすることによって、最終的な結果を達成するために資源を効果的に能率的に使うことができるのである。」

バンコク会議に参加して気づいたことは、オタワ憲章を提唱するときにそうであったように、WHO主席アドバイザーのイローナ・キックブッシュ博士（元アメリカのエル大学教授）オーストラリアのシドニー大学のドナルド・ナットビーム教授（同大学副学長）そしてジョン・カットフォード教授（オーストラリアのディーケン大学）等が中心的な役割を演じていたことでした。

2005年10月23日に千葉県佐倉市のユーカ

リが丘にあるウイシュトンホテルユーカリで「ヘルスプロモーション国際シンポジウム in さくら」が順天堂大学ヘルスプロモーション・リサーチ・センター主催（共催：佐倉市）で開催され、イローナ・キックブッシュ博士は、特別基調講演の中でオタワ憲章を継承発展させたバンコク憲章について詳細に説明されました。これは、日本、否アジアの地での初めての「バンコク憲章」のお披露目講演でした。当日の朝には、千葉県 の堂本暁子知事も駆けつけキックブッシュ博士と朝食をしながら世界のヘルスプロモーションについて意見交換をされました。私は彼女たちの楽しそうな会話を通して「ヘルスプロモーション」の価値を改めて実感いたしました。キッ

クブッシュ博士は、特別基調講演の中で、「バンコク憲章」について主要なポイントを話されましたが、最後に、「ヘルスプロモーションは一つの国家だけでは効果的ではない、すべての国々が国家を越えて取り組むべきである。」とし「健康条約」制定の必要性を強調され、「人々が生活し、愛し、そして遊ぶ場ですべての市民を守る公共性の高いレベルの保護制度を確立すべきである。」と結ばれました。まさに、グローバルな考え方を常に意識し世界的な活動を展開していらっしゃるキックブッシュ博士だからこそ語れることだと再び尊敬の念をいただきました。

Think globally, act locally! 地球サイズの愛をもって、今できることから始めよう!

第6回会議の様様と『バンコク憲章』の全容については、WHO 公式ホームページでも確認することができます。

<http://www.who.int/healthpromotion/conferences/6gchp/en/index.html>

連載

(第3回)

NORIの
ヘルスプロモーターディング・ツーリズム

会員 田口 師永

号が変わる時にはすでに次の街。今回はパリスからのお便りを、と書きたいところですが、すでに公演は終了し、オフの間の旅中からお便りを。まずはパリスという街の印象を少し。この街、いいです。メルボルンで受けた印象と同じくらいのもがあるかもしれない。サイトのすぐそばにある、むせかえるような芝生の青いにおい。奥に見える川。冬だというのに半袖でも十分な昼間の暖かさ。そういうものに包まれる幸せがこの街にはあります。さて、仕事も生活もすっかり街を渡り歩く旅芸人って感じですが、オフが三週間もあるものだから、その間にも世界を旅してしまっています。人生二度目の世界一週旅行。今回のテーマは観劇と友人に会いに行く旅。キダム以外にも所属しているサーカスは、世界に十個ショーを持っているので、それを全部観に。そしてそこで活躍する友人を観に会いに。さらに世界に散らばる最近会えていなかったなわとび仲間と会いに。常に旅をしているので、世界との距離感はずいぶん短くなりました。そこに会いたい友人がいる、そこに見たいものがある、それだけで行く理由になるなど。

田口師永 たくちのりひさ 国際的エンターテインメント集団『シルク・ドゥ・ソレイユ』(本拠地カナダ)に所属、「キダム」スキッピング・ロープ(なわとび)ソロ出演、「キダム」日本人初のアーティスト。現在世界各国をツアー中。



この秋、どこで過ごされていますか？

ADVOCATE では、皆さまの身近で起こった楽しい・辛い・充実した・暇な・体験談をお待ちしています！田口さんのように世界旅行はできなくても、ご自身の身近な 素敵！ をご紹介いただけませんか？皆さまのツーリズム をヘルスプロモーションを通じて共有しましょう。

書籍紹介

『ヘルスプロモーション講座』

順天堂大学ヘルスプロモーション・リサーチ・センターが『ヘルスプロモーション講座～心の居場所：セッティングズ・アプローチ』（島内憲夫編著、高村美奈子・助友裕子・吉川菜穂子・蝦名玲子）を出版しました。

本書は、ヘルスプロモーションの理論と実践ということで、重要な戦略概念の一つであるセッティングズ（まち、家族、学校、職場、病院）を中心に構成されています。

【全 137 項、A5 版】

また、島内氏の講演録や著者からのメッセージ、「ハッピネス・ライフ・チェックシート」の付録が付き、充実かつ、手に取りやすい内容となっております。

ぜひ一読されてみてはいかがでしょうか？

なお、本書は書店での販売はしてありません。

ご希望の方は、メールか FAX にて下記宛にご注文をお願いいたします。

順天堂大学ヘルスプロモーション・リサーチ・センター：ユカリが丘支局

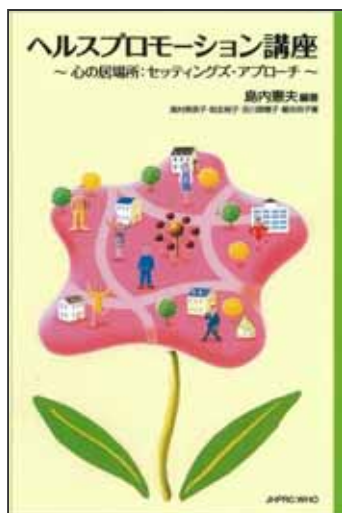
FAX：043（489）9093

E-mail：juwho-happyukari@catv296.ne.jp

【価格】1,000円（税込）

送料は別になります。ご了承ください。

（文責 高村美奈子）



「個人情報保護法」

会員データは守られています

国内における個人情報保護のために、事業者に対する個人情報保護の義務を規定した法律「個人情報保護法」が2005年4月1日より全面施行されました。当学会では、会員のみなさまが入会手続きをとられる際に、入会申込書への個人情報等の記入をお願いしておりますが、その際、一般会員への情報公開の一貫である会員名簿への記載の有無をお尋ねしており、万が一のトラブル回避にむけて努力しております。しかしながら、名簿が会員同士の交流を兼ねて作成されている現状を考慮すると個人情報の保護にも限界があります。

つきましては、会員名簿等の取り扱いにつきましては、会員のみなさまへ再度良識あるご利用をお願い申し上げる次第でございます。

また、会の運営に際し、お気づきの点がございましたら、事務局までご一報くださいますようお願い申し上げます。

事務局よりおしらせ

事務局業務をお手伝いしていただいています

現在、当学会事務局は順天堂大学にオフィスをかまえておりますが、5月10日に千葉県佐倉市にオープンされた順天堂大学ヘルスプロモーション・リサーチ・センター（WHO 指定研究協力機関）ユカリが丘支局にも一部業務をお手伝いしていただくことになりました。

これまでの学会事務局も今までどおり運営しておりますが、万が一 TEL 等で留守の場合は、同オフィスでもご連絡を受け付けておりますので、お気軽にお問い合わせください。

順天堂大学ヘルスプロモーション・リサーチ・センター：ユカリが丘支局の連絡先

043（489）9091

（担当：橋本・高村）

「会員の声」を募集しています！

身の回りの活動、日頃思うこと、ニューズレターに対するご意見、学会に対するご意見等、何でも結構です。

jimukyoku@jshp.net

編集後記 冬眠するわけでもないのに思わず身体に蓄えが欲しくなる(?) 美味しい季節がやってまいりました。何かと懇親の機会も増える季節、最近では鍋物が豊富な種類を取り揃えていますよね。。ある統計によると、日本国民は最低気温が15度を下回ると鍋物が恋しくなるのだとか。統計学的にみるか、それとも飲み会シーズン等を背景とした社会的にみるか...これまたヘルスプロモーションの醍醐味ではないでしょうか? (助友)

©本印刷物の無断転載を禁じます。

トピックス

Vol.7

ヘルスプロモーション グロッサリー

13. 健康政策 (Health policy): 関連機関 (特に政府) が打ち立てる公式の宣言あるいはその実践過程。各機関では、健康ニーズ・考えられる資源・政治的圧力などに対する活動を見据えた優先順位と限度が考慮される。(WHO, 1998)

14. 健康的な公共政策 (Healthy public policy): 健康的な公共政策では、すべての領域にわたり健康と公正に関する明確な関心事が位置付けられ、健康問題が直面している現実への責任追究が位置付けられる。健康的な公共政策の主な目的は、人々が健康的な生活を送ることができるようにするために支援的な環境づくりを行うことである。そのような政策が、市民の健康的な選択を可能にしさらに簡単にする。結果的に、健康を高めるための社会的・身体的環境が形成されるのである。(WHO, 1998)